

日々新聞

信馬

奈良縣下長谷寺近傍

小西國英場巡礼の

被害され一月の

二十九日の未明

夫婦娘と

二人は路

用の金貨

三百円金貨

ろくに眼の眩む宿に主人の故

うを望む月夜のぬすをば夜

させの奸計にて途中ゆ待と白浪を宿の亭主

されを又時金に負を懐中せし娘はくた命を取

さまとひあう漸と人家を尋守到りけれん豈國や元の宿

やがて毒く様子を物供るを傍に聞居る富山の薬商

宿を怪して娘の言食め一計お當り宿の生可お官吏

程の堂徳

順平三

